



生後3週目。もうひとりでエサをひろっている。

動物園飼育日記

213

祝したいフラミンゴの繁殖

亀井一成

（王子動物園学芸員）

いくら羽を切ってしても鳥たちは、わずかな向い風に「ふわり」と体を浮かせようとする。いや、大空への憧れこそが鳥の命なのだ。

「飛ばないよう羽は切つてあります」

かつて、商社の話を信じた我々、ハクチョウと並んで池にカツシヨクペリカン4羽を放した。大形の鳥は重いので押しつぶされることがあるため一羽ずつ箱に入れてある。一羽、二羽、三羽、四羽、次々走り出てもとび立たない。すぐさま、プールで泳ぎバタバタと汚れた全身を水しぶきで洗うさまに、すっかり安心。その日は好物のアジをどっさり食べさせて帰宅したのでした。翌日午前十一時すぎ。「えらいことや。ペリカン一羽が今しがた動物園の上空に舞い上るように飛んでいった」入園者からの知らせで逃げた方向へと駆けたが、どうにもならなかつた。残つた三羽の羽は切られていたが、飛び立つた一羽はきっと羽が残っていたのである。それ以来全く手がかりがないまま三〇年という歳月が流れた。いやこのベリカン事件こそが忘れるのできない鳥の大脱走のはしりであった。その後、ハクチョウやコウノトリ、「ベンギン」と金網のかぶつていなオープン飼育場

フラミンゴ池に誕生した巣作りの島。大成功です。

親鳥がクチバシでつくった巣で安心した表情の子供

の鳥がよく大空へ飛び立つては私たちをあわてさせてきた。(ベンギンはもちろん歩いて脱出)そこで逃げないようとにネットで囲む工事を行いフライングケージと名を替え、ペリカンやコウノトリ、ツルなど結局は大形のカゴ飼いをやってきたのである。だが、紅色の美しいフラミンゴを導入に際して誰一人として網のないオープンプールでの飼育に異議をはさむものはなかつた。全員一致だ。「やはり入口、つまり玄関に当る所がいい」となつて、もともとアヒルやガチョウなど水禽類がいたプールを全面改修して現在のフラミンゴ池ができたのであった。

「淡路へ飛んだフラミンゴ」

「モシモシ! えらい紅くてきれいな鳥が飛んできてますねん。肢には『神戸』と記された輪がついています」(……少々あわて気味……)「はい、岩屋ですね。今すぐ行きますので」「えっ! 淡路の岩屋ですか!」

動物園より三姫位南の阪神岩屋駅近くと早合点してみんなびっくり。まさか淡路まで海を渡つていようとは……。これほんとの思いでした。これまでにもハクチョウが一羽渡つたことがあつたし、動物園附近では幾度かフラミンゴが飛んでいた。そこで月一回は百十二羽を手握みし

で風切羽をばっさり切り落してきたのである。

〔助走できないブールへ改修に踏みきる〕

そして昨年度、ハクチョウ同様かなりの助走で体を浮かせて飛び立つことに注目。広いブール内に植木のボットをおき、野犬の対策に高さ一・五㍍の金網ヘンスを設けた。もちろん月一回の羽切りも徐々に中止してきた。

「せっかく広いブールにボットなんか。それに金網ヘンスが入園者の視界を遮る」などの意見も耳にしてきた。

だが、野生動物の保護育成という動物園に課せられた使命からも、この珍らしいフラミンゴの自然繁殖を見て頂きたい。担当の吉竹飼育員の熱意と山神前園長の計らいが見事に実ったのである。羽切りと、毎夜野犬対策に追い込むケージに収容していたことがストレスとなって、これまでに何度も産卵を見ながら、抱卵に至らず五十二年度に僅か一羽を人工で育てたことがあった。(佐々木飼育員) 念願の工事は昨年(昭和五十七年度)ようやく完成。今年の春以来、産卵期のフラミンゴを毎日のように観察を強めていた。

〔泥の巣に次々産卵した!〕

午前六時すぎにはチンパンジーの神ちゃんやオランウータンを運動場に出してウンコをさせてやるために欠かさず出勤している私と、今年の春以来、吉竹飼育員と朝一番入りを競うことしばしばとなつた。産卵前ペアを組んだ二羽が泥を集め巣作りを始めるはず。それを確認するため、六時出勤を続け、ばつたり私と早出のあいさつをかわす日々と相なつたのだ。

「ほれ! あのペア。間違ひなく巣作りやりよる!」

「これまでのようにならへ巣を作るようになると盛土したことが失敗やつた」

「やっぱり自分の好きな所で集団繁殖や、小さくともコロニー作りよる」

「うわ! 十五個所も泥の巣作つてみな座つてる!」

「成功成功。今朝、間違ひなくあのペア卵を産んでる」「見えたか。今朝も卵見えた。オスがよう抱いとる!」



『積木くずし』とは縁のないフラミンゴの親子

「それでも、ブールの中洲が安心するんやなあ!」

〔二十八日め見事に雛誕生〕

「あの曲がったクチバシ、餌をすくいとるためよりも、円錐形の泥巣を作るのにものすごく便利や」

「曲がったクチバシをヘラ代りに使いながら、ゆらりゆらり回つてている。一日中や」

「泥巣が毎日高くなつて、のつてている卵も自分も高くなつて行くやなあ!」

「今朝二十八日め。やつたあ! グレーの小さな雛一羽がふ化してゐるみたい!」

「まちがいない。今見えた!」

「ええと、あれはベニイロフラミンゴや」

「チリーは少し遅いはずやねん」

「やつぱり解つた。雛にはその日から餌をやつてゐる。だけどコウノトリのよう口を開け雛の前に小魚やドジョウを吐きだしてやると少々違う」

「あの曲がったクチバシをジョウゴに使って雛の口の中へ半消化の液状のものを流しこんでいるのや! その色がまた紅いで!」

〔結局十八個所巣作りして三羽の自然ふ化を見たことになる〕

「そやけど、これは、表彰もんや!」

「来年は倍増をねらおうぜ!」

華麗なる食べある記

△111▽ 活魚料理 うず潮
△112▽ 上海料理 新愛園

うず潮

★淡路島を眺めて活魚料理

久し振りに、須磨の海を見ている。

ラジオ関西で番組は持っているが（ビバ！タカラジエヌ、聞いてネ……）こちらに足を運ぶのは長くなかつたことで、海岸の松を渡つていく風さえもなつかしい。ずいぶん広くなつて、きれいになつたなあ、と思わぬ口に出る。海の見える放送局のアナウンサーのころ、宿直室でこそそつと水着に着替え、よく国道を渡つて海まで走つたものだつた。買つたばかりの黄色い水着が、上つて来るとトラもようになつてしたりした。洗つてもおちない油の汚れ。ちょうど、海がきたくなつて道まで出来ていて。そして何より立派になつたのが、こく、「うず潮」である。

夏になると、庭に丸いテーブルが出されていた。魚を中心のランチがあつて、潮風をくんくんにおいながら、昼ごはんを食べたものだつた。出来たのが昭和三十七年といふ事だから、私達がちよくちよく氷を食べに来たり、

ごはんを食べに来たのは、四、五年後という事になる。もちろん、今のような、鉄骨の四階建てではなかつた。しか二階建てだつたと思う。そして、大きな水槽には、さつきまでその辺で泳いでいたような魚がいたつけ。ここは、神戸市漁業協同組合の直営なのである。新鮮な、イキのいい魚が売りもの、というのもうなづける。そして、直営だから、かなり安い。

評判を聞いて、かなり遠くからのお客様もあるとかで、今日も、今夕方の五時、すでに宴会のにぎやかな歓声がどこからかもれてくる。おながが少し遠慮がちに鳴り出した、と、タイミングよく、なんと立派な舟が運ばれて来たことか。活造り舟盛り。魚大好き人間の私は、もう箸を割るのももどかしい。大きな伊勢エビが、武将の鎧の縫おどしのよう。いかがぼたんの花のよう。松の小枝をまくらに、鯛はまさに、今星寝から目覚めたようだ、「あらっ、寝てるまに、身けずられてまっせ。」てな感じ。車エビが横でのんびりねそべりながら、横のはまちに、「お前、いつ釣られてん?」「うん? わしか、今朝早ようや、兄弟はどこの座敷に出てるんやろ?」あわびのこりつとした歯ざわり、まぐろのおいしさ。さあ、どれからいってみようか。あつそうだ。鮓めん、鮓にそうめんを巻いた、この料理を先にしよう。あわび





▲ 見事な舟盛りの活造り。海老がまだ生きているほど新鮮です。右下は鰯めん、下中は天ぷら、左下は水貝、手前は卵豆腐
▶ 松林ごしに淡路島が見える素晴らしい眺め。夏には涼しくて良い気持ち。右は支配人の道本定子さん



を氷水につけた水貝も、さわやかな口当り。可愛いいかごに入っているのは、鰯の皮の湯通し。

ちょっと今、伊勢エビのヒゲ動いたんとちがう。えーまだ生きてます。箸で頭をコツンとたいてやつた。

魚のおいしさを、又再確認させてもらったひとときだつた。

活魚造り(舟盛り) 4~5人用/17,000円より、7~8人用/30,000円
会席料理・梅/35,000円 竹/40,000円 松/50,000円
うず潮焼き/4,500円 うず潮定食/1,800円 天婦羅定食/1,300円
うず潮弁当/1,500円 (サ込・午後2時まで)
神戸市須磨区須磨浦通1丁目1-10 電話 731-4622 午前11時半~/午後9時(ラストオーダー7時)無休

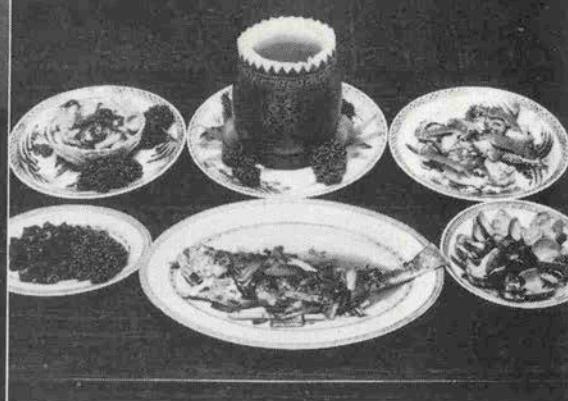
★家庭的な味と雰囲気がご馳走

新愛園が、いつのまにかきれいになつた。三階建てのビルになつた。

東京からの友人を案内して行つて、「ここ、こないだまで狭かつたんよ、いつも人がいっぱい待つてね、今日すんなり坐れたのは実にラッキーよ……」なんて言つていたのが、ついこの間だと思っていたら、もう五年になるという。しかし店そのものは、三十年というから、私はその半分位、十五年位前から知つてゐる事になる。

最初の頃は、なんとなく居づらい雰囲気があつた。隣の席、前の席から聞こえてくる会話は、ほとんどが中国語、日本語で注文するのがなんとなくはばかれて、必死でメニューを、それ風に読み上げたり、その寒、これはどんな料理が運ばれてくるのやら、とヒヤヒヤしたり。高くておいしいのは当たり前、高くてまずい店もちよこちよこある中で、安くておいしく、しかもボリュームたっぷりのこの店は、まだ稼ぎの少ない私にとって、とても貴重な場所だった。雰囲気も、慣れてくると、いかにも神戸らしい、と思われた。

新愛園



▲上左／炒三鮮、上中／冬瓜盅（季節物）、上右／蟹の油炒め、下左／骨付あばら肉の甘酢あんかけ、下中／ぐちの煮込み、下右／あさり炒め

◀ノコちゃんを囲んで右は朝らかなお母ちゃんこと乾英子さん、左は関雪芳さん（徐氏夫人）、後ろはご主人の徐伯文さん

新しくなったこの店、一階は、調理場のあるせいで、大きな丸テーブルと、四人がけのテーブル、二人がけ、二階はテーブル六つ、そして三階は二十七、八人位入れる座敷になっている。お客様の顔を見て調理出来るよう、一階にあんなスペース取ったんです、と徐さんはおっしゃるが、その気持が新愛園の持ち味である。家庭的なのである。その雰囲気のもう一人の担い手は、もう二十六年もここにおつとめという、お母ちゃん、こと、乾さんの笑顔である。

さて今日は、今まで私が一度も食べた事のない、どうがんのステップから御紹介。干し貝柱のステップの中には、しいたけ、海老、鶏のきも。南の島から届いたどうがんの表面に、喜という字をきれいにほり上げ、三十分程むすという事だが、やわらかくなつた身をけずつて食べる。あっさりとした、それでいて心まで暖たまる味である。三鮮いためは、いもで作ったかご入り。あわび、いか、貝柱にブロッコリーがからまり、私の大好きなメニュー。パリッと揚がった籠のおいしい事。カニの油いため、どうもカニは苦手である。しっかり食べたつもりでも、まだ足のどこかに身がついてんじやないか、と、ついせこい気持になるから。あさりのいためも必ず食べるメニュー。珍らしい貝が入つたから、と、『ちんつう』なる貝のいためをいただいた。これが抜群のおいしさ。長崎産という事だったが、身の型の面白さ、味の良さ。もっともいつもはメニューにのつてない。こういう事もあるから、今度から「えーっと人数はこれだけ、四種類位見つからつて下さい、珍らしいものあつたら、それもお願ひします」と頼まれてはいかがでしょうか。まかせて絶対後悔の無い店、新愛園のええとこは、ほんまにそういうとこや、と思うよ。

あさり／800円 炸田鶏／1200円 炒三鮮／1500円

包／1200円 炒大蝦／2000円 糖醋排骨／1200円

／2800円

神戸市中央区北長狭通3丁目2-10

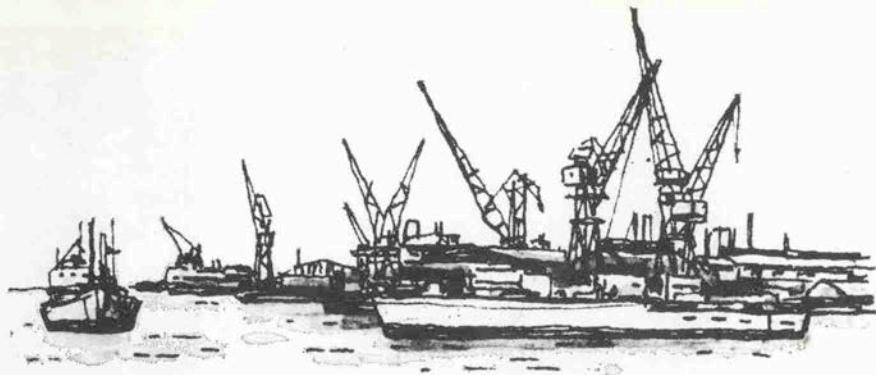
午後9時 木曜定休

8331-0924 午前11時半～

肉松生菜
姜葱焗蟹

暑中お見上げます

一九八三年 盛夏



株式会社 アシツクス

代表取締役 鬼塚 喜八郎

本店 神戸市須磨区寺田町三丁目一―三

電話 (078) 七三二一四三三一

本社 大阪府吹田市豊津町二丁目三

電話 (06) 三八五一一二二一

柏井紙業株式会社

代表取締役 柏井 健一

神戸市中央区旗塚通六丁目三一―二

電話 (078) 三二一―三六〇一

田崎真珠株式会社

代表取締役 田崎 俊作

神戸市中央区旗塚通六丁目三一―〇

電話 (078) 二三一―三三二一

伊藤ハム

代表取締役 伊藤 研一

神戸市中央区旗塚通六丁目三一―四

西宮市高畑町四番二七号

電話 (0798) 六六一一二三一四

株式会社 南インターナショナル

代表取締役 南 泰吉

神戸市中央区浜辺通五丁目一―四

神戸商貿セントラルビル一七〇一

電話 (078) 二三二一一三〇一

兵庫日産自動車株式会社

代表取締役 嘉納 正治

神戸市中央区浜浜町三丁目一―一八

電話 (078) 二五一十五五二三四

UCC上島珈琲本社

代表取締役 上島達司

神戸市中央区多聞通五一―一

電話 (078) 三六一八八〇〇四

三輪運輸工業株式会社

代表取締役 三輪吉郎

神戸市中央区脇浜町二丁目二一―一

電話 (078) 二五一五〇〇一（代）

神栄石野証券株式会社

代表取締役 石野成明

神戸市中央区栄町通一丁目二一―五

電話 (078) 三九一一〇〇〇一四

株式会社 ノザワ

代表取締役 野澤太一郎

神戸市中央区栄町通一丁目二一―五

電話 (078) 三九一一七二二一

関西貿易株式会社

代表取締役 竹田剛男

神戸市兵庫区出在家町二丁目六一―一

電話 (078) 六七一六〇二一四

光印刷株式会社

代表取締役 南部圭三

西宮市津田町三一六

電話 (0798) 三六一五五

夕風の

デツキに太き

司厨長

三堂

カツト・東浦好洋

Kōyō. H.

夕風の

デツキに太き

司厨長

三堂

株式会社 神戸新聞社
代表取締役 社長 デイリースポーツ社
取締役社長 三木良一

神戸市中央区雲井通七丁目一
電話(078)232-1422(大代)

神戸地下街株式会社

取締役社長 宮崎辰雄

神戸市中央区三宮町一丁目一〇一
電話(078)391-1402(四〇二四)

株式会社 小泉製麻株式会社
代表取締役 小泉徳一
神戸市灘区新在家南町一丁目二一
電話(078)841-1441(代)

株式会社 星電社
代表取締役 後藤博雅
神戸市灘区住吉町七丁目六一
電話(078)841-1411(四〇二四)

株式会社 ヒガシマル醤油株式会社
代表取締役 木下真珠
兵庫県龍野市龍野町富永一〇〇番地の三
電話(079)221-1048(七七)

株式会社 木下真珠
取締役社長 木下章夫
兵庫県龍野市龍野町富永一〇〇番地の三
電話(079)221-1048(七七)



株式会社 リザ
代表取締役 番崎廣敏
神戸市中央区三宮町一九一七〇一
電話(078)391-1680(一四〇二四)

株式会社 淡路屋
取締役社長 寺本滉
神戸市中央区相生町三丁目一一
神戸駅構内
電話(078)351-1682(一四〇二四)

菊正宗酒造株式会社

代表取締役 嘉納毅六
神戸市東灘区御影本町一丁目七一五
電話(078)851-1000(一四〇二四)

力ワノ株式会社

代表取締役 河野忠博
神戸市長田区大道通五丁目五
電話(078)631-1161(一四〇二四)

力ネボウ

ベルエイシー株式会社
取締役社長 稲岡必三
神戸市兵庫区浜崎通二丁目一五
電話(078)681-1361(一四〇二四)

明日の受信システムを拓く

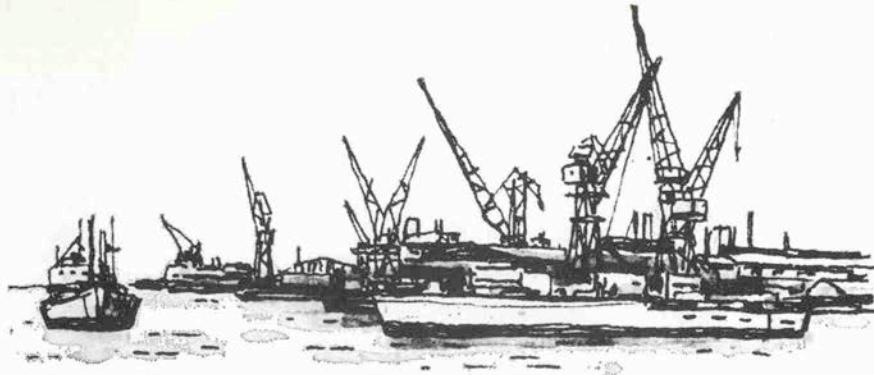
D X アンテナ株式会社

株式会社 神戸市兵庫区浜崎通二丁目一五
電話(078)681-1361(一四〇二四)

暑中お見舞

申し上げます

一九八三年 盛夏



神戸信用金庫

理事長 高村幸男

神戸市中央区浪花町六一一番地
電話(078)391-1801-14595

帝真貿易株式会社

取締役社長 金井厚

神戸市中央区加納町四丁目八一-七
電話(078)391-1226

菊水総本店

取締役会長 菊水啓輔

神戸市中央区多聞通三丁目三一-五
電話(078)382-10080

甲南漬本舗

取締役社長 高嶋良平

神戸市東灘区御影塚町三丁目九一-六
電話(078)841-1055-14

東亜外業株式会社

取締役社長 小本洋一郎

神戸市兵庫区東出町二丁目一五-八
電話(078)681-1221-19

電通神戸支局

支局長 久本嘉之

神戸市中央区京町七四(電通神戸ビル)
電話(078)331-1350-1(代)

株式会社 加美乃素本舗	横山倉庫株式会社 機上モータープール	今津建設株式会社	合名会社 高橋兄弟商会
取締役社長 宮崎幸三	取締役社長 横山吉雄	取締役社長 今津成生	代表社員 高橋利栄
神戸市中央区熊内橋通三丁目三一-五 電話(078)231-1455-45	神戸市中央区磯上通八丁目二一-五 電話(078)231-1531-1	神戸市兵庫区吉田町二丁目六一-四 電話(078)671-1363-24	代表取締役 保田信之
本社 東京都中央区築地一丁目一-一 大阪支社 大阪市北区中之島二丁目三一-一	本社 東京都中央区京町七四(電通神戸ビル) 電話(078)331-1350-1(代)	本社 東灘区御影塚町三丁目九一-六 電話(078)841-1055-14	神戸市東灘区魚崎西町四丁目一-一-三 電話(078)851-14595



夕風の

デツキに太き

司厨長

三堂

カツト・東浦好洋

三和実業株式会社

取締役社長 森本和義

東大阪市岩田町二丁目二一七
電話(0729)六二一五三一

ナニワ印刷株式会社

取締役会長 西井二郎

大阪市北区天満一丁目九一九
電話(06)三五一七二七一

株式会社 神明

会長 藤尾 豊

神戸市中央区海岸通六丁目一
電話(078)三七一一二二三一

内外落花生煎豆原料取扱

各種豆菓子高級珍味製造

株式会社 有馬芳香堂

代表取締役 有馬英夫

神戸市兵庫区下沢通七丁目一
電話(078)五七一三五八一四

自社焙煎珈琲・紅茶専門店

中平珈琲株式会社

代表取締役 中平慶三

神戸市中央区元町三丁目一
電話(078)三三二一三〇八一四

オールクリエイション

代表取締役 山本芳樹

神戸市中央区北長狭通五丁目一
電話(078)三八二一〇〇七一

不妊・過妊クリニック

室長 鷺尾 隆

神戸市中央区元町通二丁目九一六
電話(078)三九一一五九一九

鈴木会計事務所

鈴木規允

大阪市東区瓦町一丁目一
市岡宏産ビル五階

神戸市中央区琴緒町五丁目三一五
グリーンシナボービル2階

神戸市中央区二宮町二丁目四一五
電話(078)二四一一二二一

株式会社ナツチ神戸営業所

営業所長 新井和宏

神戸市中央区琴緒町五丁目三一五
グリーンシナボービル2階

電話(078)二四二一六九五

㈱ヤマギワ神戸店

取締役店長 三宅賢一

神戸市東灘区住吉町七丁目四一
電話(078)八五一一四二九一四

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 本庄商会

取締役社長 下井忠治

神戸市中央区多聞通四丁目一
電話(078)三七一一八六一

桑田硝子株式会社
取締役社長 桑田正造

兵庫の港は文化と 経済の拠点

林屋辰三郎氏講演から

★貴重な資料を

兵庫県の原像を探ろうと
「ひょうご2000年文化
シンポジウム」(神戸新聞主
催／日本アイ・ビー・エム
協賛)が、6月11日県農業
会館大ホールで開かれた。

その中で、林屋辰三郎・京都国立博物館長は「歴史のなかの兵庫・兵庫北関入船納帳にふれて」というテーマで、氏が復元した「兵庫北関入船納帳」を紹介しつつ、中世の兵庫港の繁栄について講演した。この兵庫北関入船納帳は、文安2年（1445年）の正月か

この文書の発見は全く偶然であったという。氏が京都の古本屋の店頭で見出した、一個の古文書櫃の中から姿を現わしたのが、この入船納帳で、旧藏者や市場に放出された事情は全く不明だそうだ。

破損が極めて大きく、また虫害も甚しかったので、

間、兵庫の港に出入する船に対する関税賦課について、日記体に記録した帳簿である。当時の商圏などを明確にするうえで貴重な資料であり、世界的にも稀少な例と言われている。

★平清盛政権の最大の 狙いは宋との貿易

中世に入つて、兵庫とい
う地域が大きく浮かび上つ
てくるのは、平清盛の六波
羅政権の時期である。

これまでの貴族政権がよりどころとしていた財政基盤の上に、新しいものを考えついたという点に、この政権の特徴があると、氏は指摘する。

その一つは、知行国の國守に自分の一族を任命し、経済的基礎を作り上げていったこと、二番目は、莊園

ある。地頭が制度化されたのは、鎌倉幕府の時代であるが、その先鞭をつけたのは、清盛であったと考えられる。そして3番目が、六波羅が、

政権の最大の狙いであるが、宋との貿易への着眼である。福原へ都を移したというのも、宋との貿易を強く推進するためであり、兵

世界の洋酒
世界のワインが
楽しめる

株式会社 北野商店

本店 兵庫県中道通1丁目4-31
TEL (078) 577-1181～3
山の街店 TEL (078) 581-2377
名谷店 TEL (078) 791-7171～2

124

おもちゃやの図書館

橋 本 明 ▼社団法人「家庭養護促進協会」事務局長

部屋の中に足を踏み入れると床いっぱいにひろげられた数百のオモチャと、夢中で遊びまわる子どもたちとそれを見守る親の楽しそうな顔の数々が、ぱっと目にとびこんできた。二〇畳ほどの部屋は足の踏み場もない程度で大きな活気がみなぎっている。



ここは六月五日に誕生した「兵庫県おもちゃライブラリー」の一室で、場所は中央区坂口通二丁目にある兵庫県福祉センターの五階。兵庫県社会福祉協議会が設置し、運営はボランティア協会兵庫ビューローがあたり、多くのおもちゃボランティアがこのライブラリーを支えている。

が、一九八一年の国際障害者年を契機に各地におもちゃの図書館が誕生し、現在では三十数カ所で実施されており、「おもちゃの図書館全国連絡会」も今年の二月に結成され、図書館の運営に関する研究調査、情報の交換、ボランティアの養成などを目ざしている。

今度誕生した「兵庫県おもちゃライブラリー」はかならずしも障害児だけを対象としたものではなく、一般的家庭の乳幼児も自由に利用できる。したがってこのライブラリーでは障害児も一般の子どもたちもおもちゃといふ共通の道具を中心にはさんでお互いに仲良く交流の場を創りあげていくことができる。

おもちゃで夢中に遊んでいる子どもたちの姿には、障害児であるかないかなどの違いは全く関係のないことなのだ。

遊びの中で子どもたちの発達段階に応じて使用していく自宅にも持ち帰って親子で訓練に利用しようというものであつたらしい。

日本でも八年前から大阪や奈良で試みられていた



子供たちが好きなおもちゃで遊んでいます

「子どもの生活は、全てが遊び

パンフレットには、

神戸の感性がいきづく ハイセンスファッショント

(株)イズム小田倶義社長を訪ねて



若くてダンディな小田倶義社長

で“イズム”(i s m)というのを考えました

——会社の組織の内容をご紹介下さい。

小田「営業関係をマーケティング室、企画などをマーケティング室、管理関係をコントローラー室と3部

ヤンダイジング室、管理関係をマーケティング室と3部

ります。最初はブラウスマーカーとしてや

すが、もともとぼく自身、点の勝負という

よりも綴でやつていただきたかったのですから今ではト

タルに展開しています」

——社長さんご自身についてお聞かせ下さいませんか。

小田「ぼくは神戸の兵庫で生まれ育った根っからの神戸

っ子です。商売をするのは両親から大反対され勘当然

の状態で始めたんですよ。最初モードオリオン(株)でお世

話になり、15年の間に浅井社長にはいろんなことを勉強

させていただきました。現在では、今までに蓄積された

ものによって自分の中にある神戸気質が自然に出てきて

いるようです」

——最初に始めるにあたってのターゲットは?

小田「それは全員がボリシーを持つて進んでいくことを

頭に、具体的には25才~28才位の神戸のお嬢さんを意識しています。“2年に一度の新風、4年に一度の改革

を”ということを目標に神戸の土地がもつ品位・感覚を

の目標に向かって全員が一丸となって進んでいくことが

一番大切なことだと思い、主義・主張を持つという意味

注目を浴びている株イズムの小田倶義社長を取材した。

——“イズム”とは変わった名前ですね。

小田「そうなんです。私自身この会社を始める前から、

数多いアパレル産業の中で何か独創性のある社にしよう

と常に考えていましたが、やはりそのためには、一つ

の目標に向かって全員が一丸となって進んでいくことが

最も重点を置いて行きたいと思っています」

——ブランドとしてはどのようなものがありますか。

小田「イズムスポーツをメインブランドにシャープな感

覚のイズムアングレ、イスト、それにエレガントなところではイズムフェミニン、イズムエレガンス等があります。

この中でイストというのが新ブランドでハイリッチな感覚でなく、マイナーに本当の意味のファッショントを好む女性に身につけていただきたいのです」

——商品づくりの中特に重要視されている点は?

小田「すべて難しいと思いますが、やはり素材選びを慎重にやっていますね。この素材の時点で差別化していくか

ないし服そのものの個性がでませんから。売り上げを伸ばしていくためだけの商品づくりじゃダメですね。スタ



イズム'83今秋物コレクションより人工皮革の『ラムース』もお目見得する(右側)

ツフ全員の持っているものが全面的に出せないといいものは創れないと思います」

——流行はどんな風にとりいれていられますか。

小田「うちのブランド商品は、デザイナーの持っているタイプに合わせてできあがつていています。ぼくはファッショントというのは過去の繰り返しであって、

ただ自社の個性をいかに今風にとらえていくかということに(が大事じゃないかと思つていています。トレンド(世界の傾向)から離れずいかにPRしていくかということになりますね」

——当面の目標は…。

小田「全スタッフが売り上げというより、いいものを創ろうと、今それに向かって懸命です。愛する神戸で、全国に位置づけできる会社の持ち味・商品感覚を育て上げていきたいですね。実際、我が社が業界に与えた影響は大きいようで、過去において受けいられなかつた東京でも神戸の商品が見直されてきつたるんです。カルチャードとファッショントがトータルにコーディネイトされている神戸の感覚を生かしていくことこそがファッショント界を代表していく上で重要なテーマとなつてくるでしょうね」

各都市の中でも、私共の商品が雰囲気的に合う専門店を選んで、お取引き頂いていますが、最初は45店舗だったのが現在300店舗ぐらいになりました。各ブランド1ヵ月に1度ぐらい、コンベンションルームで展示会を催しています。展示会の案内状が、デザイナーの凝つて作るもので好評なんです(笑)受け取られるときさん興味をもつて来て下さいますよ」

——最後にお好きな女性像をお聞かせ下さいませんか。

小田「何度も繰り返すようですが、私は神戸というところを非常に愛している男です。神戸にはあらゆるカルチャード・ファッショントが浸透しており、そこで磨かれたセレスを身につけた『神戸女性』がいいですね。より魅力的な『神戸女性』のため努力は惜しまないつもりです」